

## ※抗がん剤治療

抗がん剤治療は、がん細胞の増殖を防ぐ抗がん剤を用いた治療法で、がん細胞が増えるのを抑えたり、成長を遅らせたり、転移や再発を防いだり、小さながんで転移しているかもしれないところを治療するためなどに用いられます。

手術治療や放射線治療が、がんに対しての局所的な治療であるのに対し、抗がん剤治療は、より広い範囲に治療の効果が及ぶことを期待できます。

このため、転移のあるとき、転移の可能性があるとき、転移を予防するとき、血液・リンパのがんのように広い範囲に治療を行う必要のあるときなどに行われます。

抗がん剤単独で治療を行うこともあれば、手術治療や放射線治療などのほかの治療と組み合わせて抗がん剤治療を行うこともあります（集学的治療）。

また、薬物療法には、単独の薬剤を使って治療する場合と、数種類を組み合わせる場合があります。

作用の異なる抗がん剤を組み合わせることで、効果を高めることが期待されます。

抗がん剤は、作用の仕方などによって、いくつかの種類に分類されています。

化学物質によってがん細胞の増殖を抑え、がん細胞を破壊する治療を「化学療法」と呼びます。

一方、がん細胞だけが持つ特徴を分子レベルでとらえ、それを標的にした薬である「分子標的薬」を用いて行う治療を「分子標的治療」と呼びます。

また、がん細胞の増殖にかかわる体内のホルモンを調節して、がん細胞が増殖するのを抑える「ホルモン剤」を用いた治療を「ホルモン療法（内分泌療法）」と呼んでいます。



(大分県東部保健所 検査課 診療放射線担当 平成 27 年 11 月 18 日作成)